

山形新聞社の許可を得て掲載

# 地域可能性、学び深める

## 新庄北高 1年生、考察の成果発表



新庄市の新庄北高（石山宣浩校長）1年生116人が取り組んだ「地域理解プログラム」の成果発表会が4日、同校で開かれた。27班に分かれ、新庄・最上地域の観光や農業の振興など

をテーマに地域の可能性を考察した結果を示した。新庄まつりの盛り上げを担当した班は、観光客が子どもなどを体験できる企画を提案。「オリジナルTシャツがあれば、一体感を持つ

新庄まつりを盛り上げる企画を発表する生徒たち  
— 新庄市・新庄北高

て祭りに参加でき、その売り上げで若連の山車制作を支援することもできる」と紹介した。発表した鈴木叶望さん（16）は「観光客も参加できることで、より楽しめる祭りになると思った」と話していた。

外国人の言語支援について考えた班もあり、ビジネスなどで同市を訪れた外国人に話を聞いた結果、日本語を話せず、観光や飲食などの魅力に気付かない人が多いことを発見。英語を話すボランティアや翻訳ソフトなどを活用し、良さを知ってもらう方策を示した。発表会には同校2年生と同市の津田浩教育長、佐藤卓也市議会議長らも出席した。（八木沢駿）